

# カルメル 霊性センターニュース



宇治カルメル会修道院

2019年11月

358号



# 『靈性センターニュース』

## 2020年度の郵送お申込みのご案内

靈性センターニュース 愛読者の皆様

ご愛読をありがとうございます。

2020年度（1月～12月、8月休刊のため11冊）の『靈性センターニュース』郵送をご希望される方は、以下の振替口座に2,750円程度の献金（郵送料込みで1冊250円の献金とすれば、11冊で2,750円程度の献金）をお振込みいただければ、幸いです。

郵便番号口座： 00910-6-333184

加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局

なお、振替用紙の通信欄には、混乱を避けるため、年間の「郵送申込」か純然たる「靈性センターへの献金」かを明記してください。また氏名、郵便番号・住所、電話等もお忘れなくご記入ください。

お問い合わせは、事務局の方へ電話かファックスかe-mailで、お願いいたします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

カルメル会宇治修道院 「靈性センターニュース事務局」

Tel:0774-32-7456

Fax:0774-32-7457

[reisei@carmel-monastery.jp](mailto:reisei@carmel-monastery.jp)

『カルメル靈性センターニュース』編集長  
中川博道 o. c. d.

## 目次

来年度の郵送お申込みのご案内	1
目次	2
教会からの巻頭の言葉	3
心の泉	5
通信深読お申込みのご案内	26
カルメル会の企画案内	27
東京	28
名古屋	33
京都	34
北陸	36
諸所の企画案内	37
郵送お申込みのご案内	44
あとがき	45

【教会からの言葉】「イエスにお目にかかりたいのです」(ヨハネ12章21節)

### 『ラウダート・シ』からの呼びかけ

「内的な意味での荒れ野があまりにも広大であるがゆえに、外的な意味での荒れ野が広がっています」。こうした理由で、生態学的危機は、心からの回心への召喚状でもあります。熱心でよく祈ってはいても、現実主義や実用主義にかこつけて、環境への関心を嘲笑しようとするキリスト者たちがいるということも知らねばなりません。他方、消極的なキリスト者もいます。自分の習慣を変えようとしない、一貫性に欠ける人たちです。したがって、そうした人々皆に必要なものは『エコロジカルな回心』であり、それは、イエス・キリストとの出会いがもたらすものを周りの世界とのかかわりの中であかしさせます。神の作品の保護者たれ、との召命を生きることは、徳のある生活には欠かせないことであり、キリスト者としての経験によって任意の、あるいは副次的な要素ではありません。(217)

キリスト教の靈性は、生活の質についての別種の理解を示し、消費への執着から解放された自由を深く味わうことのできる、預言的で観想的なライフスタイルを奨励します。…それは「より少ないことは、より豊かなこと」という確信です。事実、新たな消費財がひっきりなしに氾濫し続けることが、心を惑わし、一つ一つの物事や、一瞬一瞬の時を大切にできなくしてしまいます。

他方、それがどんなにささやかなものであっても、一つ一つの現実に落ちついて臨むことは、理解や自己実現というはるかに大きな地平へとわたしたちを開いてくれます。キリスト教の靈性は、節度ある成長とわずかなもので満たされることを提言しています。それは人生の中で与えられる可能性に感謝するために、自分が所有するものへの執着を捨てるために、ないことを悲しみ挫けることがないように、小さなことに立ち止まってそれを味わえるようにしてくれる、あの素朴さへと立ち帰るということです。それには、支配の力学と、また単なる快樂の蓄積とを避けることが求められます。(222)



聖母子像とざくろ・かりんの樹(黙想の家)

# 心の泉



宇治カルメル会修道院・信徒会館



## 第三卷

### 第二十三章 心に平和を与える四つの条件

#### 1 主

《子よ、今、私はあなたに平和と真の自由の道を教えよう。》

#### 2 子

《主よ、おおせのとおりになりますように。私は喜んで聞きます。》

#### 3 主

《子よ、自分の意志よりも他人の意志に従うように努めなさい。多く持つよりも少なく持つことを望みなさい。つねに卑しい地位に甘んじ、皆の下につくことを望みなさい。神のみ旨が、あなたのうちに完全におこなわれることを願いなさい。このような心がけの人間が、安らかに静かな国に入ります。》

#### 4 子

《主よ、あなたのその簡単なみことばは、完徳に至るための、まことに尊いことばです。ことばとしては簡単でも、深遠な意味と豊富な実とがあります。私がその訓戒を忠実に守っているなら、私はこれほど動揺するはずがないのです。私が不安を感じ、悩みに押しつぶされそうな時には、あなたの教えから離れていることに気づきます。しかし、全能のあなたは、私の霊的な進歩を望んでおられます。どうぞ私の上に恵みを増し、あなたの戒めを守って、魂の救いを得させてください。》

#### 5 邪念をふせぐ祈り

《主なる私の神よ、私から離れないでください。「私の神よ、助けに来てください」(詩編 71・12)。邪念と不安とが私の心を悩ませようと襲ってくるからです。私はどうして、そこを無事に通り抜けられるでしょう。どうしてそれらを追い出せるのでしょうか。》

主であるあなたは言われる、「私は、あなたに先立って歩み、世の高慢な者を打ち砕く。私は牢の扉を開き、隠された神秘をあなたに示そう」(イザヤ 45・2)。

主よ、おことばのとおりになさってください。あなたがおいでになると、すべての邪念は消えます。私の唯一の希望、唯一の慰めは、あらゆる患難において、あなたにより頼み、あなたに信頼し、心からあなたに助けを乞い、忍耐強く慰めを待つことです。》



台風、暴風は無残な「傷跡」を残して去っていききました・・・美しい秋の日々はどこかに姿を消してしまっただけです。自然災害も実は、私たちの日々の生き方と関連していることを自覚させられる日々でもあります。

11月、教会では古くから死者の月として家族、知人、友人・・・そしてすべての信仰の「先輩たち」を思い出し、祈りにおいて交流することになっています。

三位一体の聖エリザベットはリジュの聖テレーズとほぼ同時代を生きました。初聖体の日に自分の名エリザベットが「神の家」であることを知ってから、神の内在の神秘をひたすら生き、26歳で帰天する前に「わたしの一生に太陽の光がさんと注いでいたのは、“心の深みに住まわれる神”と親しくしていたからでした」という言葉を残しています。日々の生活の中では、どのように生きていたのでしょうか。

「心の表面を通り過ぎていくものは、それほど重要ではありません。私たちは心のうちに住んでおられる、愛する方を信じているのですから。」

死への旅の同伴者であることをたびたび語っていました。「主のみがこの大きな死への移行に際して、私たちに付き添い助けてくださることができるのです。・・・

魂が体を離れると、一生を通して私のうちに住まれともにいてくださったにもかかわらず顔を合わせて正視できなかったその方を、自分のうちにベールなしで見ることができるのです。・・・神は私たちをいつもみじめさから救い出し、赦すためにわたしたちのうちに住まわられていることを思い出すと本当にためになります。」\*70pp

聖エリザベットに助けられて、神とさらに親しく生きる日々でありますように。



伊従 信子 (いより のぶこ)  
ノートル・ダム・ド・ヴィ

\*「神はわたしのうちに、わたしは神のうちに」伊従信子、聖母文庫、聖母の騎士社

## 創造主への賛美 (25)

くのり 彰

人を差別する心が人間にあるかぎり、この世から争いや戦争はなくならないだろう。差別する心があるということは、いまだにコンプレックス(複合感情)から自由になっていないということでもある。たとえば、アメリカでは白人の黒人差別が今なお厳然としてある。オバマ大統領が辞任する時であったろうか、白人の女性が、「黒人の大統領はもういい。私たちはもっときれいな人が大統領になることを望んでいる」と発言していたのには驚かされた。黒人のオバマ大統領やその夫人やお嬢さんたちがしばしばテレビの画面に登場するのを見ての発言と思われるが、実にひどい言葉である。黒人はきれいでないという先入観であろう。

彼女はコンプレックスから自由になっていない。自分が白人であることに優越感を抱いているのだろうが、それは、違った観点からは、ただちに劣等感に早変わりする。白人同士の間でも、先祖はどここの国の出身であるか、今はどここの州、都市の出身であるか、どここの大学を出ているか、どんな職業についているか、どんな地位にいるか、どれだけの財産をもっているのか、どんな家柄か等々。あらゆることが尺度となり、その物差しで優越感を抱いたり、劣等感を抱くのである。

その時、差別する人が今度は差別される人になり、差別されている人が今度は差別する人になる。差別はいじめをうむから、まさに前に挙げた樹木希林さんの言葉となる。こうして私たちは絶えずいじめられたり、いじめたりして、日々を過ごしているのである。

ひとりひとり 違って 生まれる  
当然、差別がある  
いじめは ちがいがから 起きる  
わたしも 人をいじめたし、  
いじめられたし  
それを亡くそうたって——ネエ  
はてしない道のりです

ところで、差別をする心、それは、人より優越し、皆から評価されたい、皆から特別視され、人より偉い者になりたいといった心から生じてくるのではないだろうか。ここから人より上に立とうと、人間同士の間で激しい競争が始まるのである。

(続く)

# 十字架の聖ヨハネのこぼれ話 (140)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

## 「自然と十字架のヨハネの関係」(2)

バエサからベアスへの旅について語りながら、同じ証人はこう供述しています。「何日か私たちは一緒でした。ある日の午後、野原に出ました。そこいた時、彼は、いつものように主の威光について語った後で、『私たちの主を賛美するため、ちょっと離れていてください』と言いました。そして野原に出た時、あるいは、修道士たちをいこわせるために外に連れ出した時、いつもこうしていました。祈り、神を賛美できるひっそりとした場所を探していました。川や小川があれば、水を見ながら、あるいは草原を見ながら、すぐに祈りと賛美を捧げていました」。

\*サン・ヒラリオン・フランシスコは、1591年の8月と9月、もう死に近い時、ラ・ペニユエラの人里離れた修道院に隠遁した十字架のヨハネの、上述の姿を物語っています。

「シエラ・モレナにある、まったくの孤独にあるラ・ペニユエラ修道院へ、彼は何の役職もなく隠遁しました。彼はそこで、神に奉仕するために何の役職もなく暇になっている自分にとっても満足し、聖人のように時を過ごしました。日が出る前に起き、菜園に行き、水路の側の柳の間で跪き、太陽の熱がそこから彼を追い出すまで、祈っていました。修道院にもどり、敬虔な態度でミサを捧げていました」(BMC14, 112-113)。ミサでの敬虔な態度は、疑いもなく、宇宙的な敬虔さや兄弟なる太陽との接触によって増したことでしょう。そしてこの証人はなおこう続けています。「別の時には、彼は荒れ野へ出て行き、神に驚嘆する者のように歩いていました」(同 113)。

\*聖人とセゴビアで一緒に住んだベルナベ修道士は、次のような証言をしています。

「何度も本証人は、彼がセゴビアの修室から出て、修道院の菜園にある岩山や岩壁に行くのを見ました。そこで彼は、そこにあった一人の人間が横になれるぐらいの小さな洞穴に入りました。そこからは空や川や野原がよく見えました。何度かここで、他の時は修道院の窓辺で、また他の時は、聖なるご聖体の前で、長い時間、祈りに費やしていました。そこから神の愛の火が出ていました」(BMC14, 292)。



## 年間 第31主日

(ルカ19:1-10)

イエスは上を見上げて言われました。「ザアカイ、急いで降りて来なさい。今日は、ぜひあなたの家に泊まりたい」。

多くの群衆に囲まれていたイエスでしたが、木の上から自分を見つめる熱い視線に気がつきました。「わたしを探し求めている人がいる」と感じたのです。イエスに呼ばれて降りてきたザアカイは、喜んでイエスを迎え、彼の心は変わりました。「主よ、わたしは財産の半分を貧しい人々に施します。また、だれかから何かだまし取っていたら、それを四倍にして返します」。

イエスと出会い、その深い憐みに触れた彼は、貧しい人々への思いやりを燃やし、不正な生き方を改めようと決心したのです。「ザアカイは立ち上がった」と書いてあります。それは生き方を根本的に変えたことを表していると思われます。そんな彼にイエスは言われます。「今日、救いがこの家を訪れた。この人もアブラハムの子なのだから。人の子は、失われたものを捜して救うために来たのである」。

「あの人は罪深い男のところへ行って宿をとった」と人々から白い目で見られる中、イエスはザアカイを無条件にゆるし、肯定し、彼の人生の立ち直りを喜びました。九十九匹の羊を残し、見失った一匹を探し求める羊飼いであるイエスは、このようにして失われた人をご自分のもとに連れ帰るのです。イエスのこのような寛大さが、ファリサイ派らの反感を買い、やがて十字架を招くことになっていきます。十字架のイエスの姿は、自分の命を惜しまずに、失われた人を探し続け、罪人を愛された神のお心のしるしです。

イエスは今も、飼い主のいない羊のようなありさまの人々を深く憐れんで見つめています。イエスは、ザアカイがそうであったように、ご自分を見てみたい、会いたい、という人の家に泊まられます。ご自分を求める人がいると、すぐにその視線を察知し、お声をかけてくださるのです。イエスは罪人であっても本人の自由を侵害しません。皆に悔い改めを呼びかけますが、その呼びかけに自分で応えるのを待っているのです。

私たち教会は、この失われた人を探し求めるイエスを告げ知らせるためにあります。すでに立ち帰った私たちが、イエスの憐れみを告げる伝道者です。そのためには、私たち自身も探し出され、愛されたことを深く味わわなければなりません。もしイエスの憐れみを忘れていたのなら、再びイエスを探しましょう。「今日は、ぜひあなたの家に泊まりたい」と両手を広げて待っているイエスのみ顔に気がつくでしょう。そして、その深いお心に触れ、イエスの生き方に少しでも倣うことで、他の人々にもイエスを告げ知らせる者となることができるでしょう。

(今泉健神父)

## C年 年間 第32主日

(ルカ20：27－38)

本日の福音を読むと、イエスの公生活において、主ご自身の信仰や価値観に疑問を投げかける個人とグループが数多くいたことに改めて気づかされます。この箇所では、保守派として知られていたサドカイ派の人々が、イエスに対し、復活について問いかけています。サドカイ派は、ファリサイ派と違って、文字で書かれたモーセの律法のみを聖書として認め、口承の教えに耳を傾けませんでした。そして裕福な貴族でもあったため、解放をもたらすメシアを期待せず、死者の復活も信じていませんでした。彼らにとって天使と霊を信じることは危険な思想でした。このサドカイ派によると、復活する代わりに老若男女は全員、善悪に関係なく、死後、「冥土」の世界に入るため、来世を気にせず現世を楽しむことに集中していました。

サドカイ派の人々は、イエスを混乱させるためか、それとも復活を信じるファリサイ派を馬鹿にするためか、次のように問いかけました。復活について話されていますが、ある女性が7度結婚した場合、復活した時に一体誰の妻ですか？と。

そもそも復活とはどういうものなのかを思いめぐらしてみましょ。復活後のいのちは、現世のいのちとどう違うのでしょうか？私たちの関係性はどのようなものになるのでしょうか？この問いの答えは、福音書にはっきりと記されています。永遠のいのちは、この地上での存在とは質的に異なるものです。復活後、私たちは神の「親密な現存」のうちに生きます。お互いの関係性がどうなるかは分かりませんが、神と私たちとの間の関係性のうちに、そしてその関係性を通じて、私たちが相互につながることは確かです。私たちは神と一つになるのです。私たちは、死を免れることはできません。しかし、イエスが十字架上で死に、復活されたことによって、神が同じように私たちを死から復活させて新しいいのちに招いてくださるという約束とともに、私たちも生きて死ぬのです。この新しいいのちを与えられると、私たちは、「もはや死ぬことがない。天使に等しい者であり、復活にあずかる者として、神の子だから」です。

誕生と死は、地上の生活では避けられない現実ですが、天国では、誰も死ぬことがありません。来世（復活）を信じるためには、神への信仰が求められます。いのちの与え主である主は、ご自分と一緒に永遠に生きるよう、私たちを招かれています。

*(Sr. Paulina)*

## 年間 第33主日

(ルカ21:5-19)

今年度の教会の暦も残すところ、あとわずかになりました。来週は年間最後の主日、王たるキリストの主日です。一年の終わりが近づくとつれ、主日の福音は終末の色彩が色濃くなりますが、今日のみ言葉は、神殿の崩壊、終末の徴について語られています。

神殿、神の住まい、神の住まうところ…。ローマ帝国の支配下にあったエルサレムの神殿ですが、この頃はまだ神殿の破壊、崩壊する前であったこともあり、ある人たちが感嘆している様に、見とれる様な見事な石と奉納物で飾られており、人々は神が永遠に住まうところと考えていた様です。

その様な中であって、イエスの言葉は人々の心を揺さぶります。永遠と思われていたものがそうではない…と言われるのですから。そのことはいつ起きるのか、どんな徴があるのか、彼らがイエスに尋ねると、イエスは具体的にお答えになりました。

戦争や暴動など様々なことが起こるけれど、世の終わりはすぐには来ない。民は民、国は国に敵対し、地震や飢饉や疫病などが起こるが、全てが起こる前に迫害を受けて、イエスの名のために王や総督の前に引っ張ってゆかれ、それは証をする機会となるが、前もって弁明の準備をするまいと、心に決める様に…と。

世の終わりは、いつかは来るでしょう。迫害や困難などもいつか来るかも知れませんが、神を信じるクリスチャン、キリストを信じる者は、そのことを心配して生きるのではなく、神に信頼し、救いを待ち望みながら歩むとき、神の助けに力づけられ、支えられながら、歩んでゆくことができるでしょう。

終末に向かって歩んでいる私たちですが、聖書のみことばが終末について語るのは、怖れさせるため、脅かすためではなく、神への信頼のうちに歩むことの大切さを語ろうとしているのでしょね。私たちの人生、日常生活において様々なことが起こりますが、神への信頼のうちに、神とともに歩んでゆくことができます様に。そして永遠の生命に入ることができます様に。

(Fr. 古川利雅)

## 王であるキリストの祭日（C）

（ヨハネ 14：23－29）

典礼歴最後の日曜日、教会は王であるキリストの祭日を祝います。この祭日では、主の普遍的な王職を思い起こします。新約聖書には王としてのキリストを表すことばがたくさんあります。お告げのとき、「神である主は、彼に父ダビデの王座を下さる。彼は永遠にヤコブの家を治め、その支配は終わることがない。」とあります。東方からエルサレムに来た占星術の学者たちは、「ユダヤ人の王としてお生まれになった方は、どこにおられますか？」とたずねます。枝の主日にはユダヤ人たちは「主の名によって来られた方に祝福があるように」と叫びました。本日の福音では、『これはユダヤ人の王』と書かれている立て札を読みます。

王というと、私たちは王とは権力があり、成功し、勝利を得ていると思います。しかし、イエス様の場合は、死の間際まで十字架にかけられている惨めな人です。何故でしょうか？ イエス様は十字架を支配しています。十字架はイエス様の王冠です。イエス様の王国はこの世の王国とは全く異なっています。イエス様の王国はこの世で始まりますが、この世のものではありません。主の王国は、この世を超えています。私たちが罪びとであるのに、十字架の上でイエス様は私たちの救いのために苦しみ、死ぬことでその愛を表わしてくださいます。イエス様は復活でその不屈の力を表します。

ユダヤ人の指導者や兵士たちは、私たちに對するイエス様の救いの愛を理解しませんでした。イエス様が十字架にかけられたとき、彼らはイエス様をあざ笑い、本当に王ならば、十字架から降りて王の力を示すようにと言って挑戦しました。善い泥棒だけは、イエス様の力とメシアであることを理解し、「イエスよ、あなたの御国においてになるとときには、わたしを思い出してください」と祈りました。イエス様は死の瞬間、善い泥棒の苦痛を取り去るのではなく、天国の恵みを与えて回心させ救いました。

イエス・キリストは、世界中のキリスト者の心の中に愛する王として今、まだ生きています。イエス様の掟は、「私があなたたちを愛したように他人を愛しなさい」という独特なものです。イエス様は私たちの王で、救いと解放の使命をもっている方です。私たちが地上では平和で幸福に生き、天の国では永遠の生命を相続するために、あらゆる束縛から人類を自由にしてくださいます。イエス様のなさり方は、失ったものを探し、イエス様に呼びかける者に救いを差し出すことにあります。

(Sr. Paulina)

# いのちの言葉 11月

喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。

(ローマの信徒への手紙 12・15)

聖パウロは、ローマの信徒たちに向けて、イエスによって全人類にもたらされた偉大な神の賜物、聖霊について語ります。そして、そのすぐ後で、信徒たちがお互いの間や、すべての人々との関わりの中で、神から頂いた信仰の恵みに、どのように応えればよいかを語っています。

パウロは、同じ信仰をもつ仲間たちへの愛にのみ留まることなく、すべての人に開かれた福音的な愛をもって生きなさいと、彼らに勧めます。キリスト者にとって、愛に境界はなく、ましてや、特定の人にだけ向けられるものではないからです。

さて、今月のみ言葉で興味深いことは、先ず“喜ぶ人と共に喜びなさい”とあることです。偉大な教父、聖ヨハネ・クリゾストモはこう言っています。“心に妬みや羨望があるとき、相手の苦しみを共にするのは容易だが、その喜びを共にすることは非常に難しい”と。

こう考えると、たどり着けないような険しい道を山頂めざして登っていくように感じるかもしれません。でも、私たちには、それは可能でしょう。なぜなら“誰がキリストの愛から私たちを引き離すことができるでしょうか”(ローマの信徒への手紙 8・30)とあるように、私たちは、絶えずキリストの愛に支えられているからです。

喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。

キアラ・ルービックは、次のように語っています。

「このみ言葉を生きるために良い方法があります。それは“相手と自分をひとつにする”ことです。少し説明するなら、“兄弟一人ひとりと自分をひとつにし”相手の心の深みにまで入っていくことを意味します。例えば、相手がかかえている問題を真に理解し、相手の望み、喜びなどすべて分かち合えるようにです。兄弟の前に自分を低くして、相手の立場になり、”相手になりきる”とも言えるでしょう。これこそキリスト教です。神であるイエスは、人となられ、私たちと同じようになられました。それは、イエスご自身と全く同じ神の恵みに、私たちがあずかることができるようにするためでした。

このように相手と一つになるなら、相手は、自分が理解されたと感じ、慰めを得ることでしょう」<sup>1</sup>と。

この愛のお手本に、お母さんの愛があげられるでしょう。子どもの喜びを自分の喜びとし、裁いたり何の偏見ももたずに、苦しむ子どもと涙する術を心得るお母さんの愛です。



喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。

さらに自分の心配事、自分の利益、自分の世界に閉じこもることなく、いつも他の人に心を開いておくために、大切な秘訣があります。それは、愛そのものの根源である、神様との関係を強めることです。

樹木は土の下に根を深くおろせばおろすほど、葉が豊かに茂ります。私たちと神様との関係も、これと同様です。神様との関係が日々深まるにつれ、自ずと、私たちも、周りの人の重荷を共に担い、喜びも共に分かち合いたいと望むようになり、さらに、傍らにいる兄弟が今どのような時を生きているのか分かり、手を差し伸べることもできるでしょう。私たちは、「兄弟への愛」を通して、「神様との深い交わり」に導かれるともいえるのです。

このように、誠実で見返りを求めない愛に生きるとき、私たちは、自分が置かれている環境が変わるのを目にするでしょう。家庭、学校、あるいは職場で、また共同体の中で、愛は相手にも伝わり、私たちは感謝のうちに相互愛を体験するでしょう。

ここで、二つの家族の体験を紹介したいと思います。キリスト教徒のタチアナとパウロ、イスラム教徒のベンとベスマ、この双方の家族は、試練の時、希望の時をいつも共にしてきました。

夫のベンが重病だった時、タチアナとパウロは、彼の奥さんのベスマと二人の子どもに寄り添い、彼が帰天するまでずっと病院に同行しました。ベスマは夫を失った悲しみの中にあっただときも、他のクリスチャンの友人たちと一緒に、もう一人の重病を患った人のために、メッカに向かって心からの祈りを捧げてくれました。その時、ベスマは話してくれました。「私は、他の人の幸せを願う皆と自分が、ひとつでいられるのが嬉しいです。私にとってこれ以上大きな喜びはありません」と。

レディツィア・マグリ

連絡先：フォコラーレ東京 03-3330-5619/03-5370-6424 長崎 095-849-3812

E-mail:tokyofocfem@gmail.com

ホームページ: <https://www.focolare.org/japan/>

<sup>1</sup> キアラ・ルービック、相互愛：一致の霊性の核となるもの、正教会信徒との集い、1989年

3月30日、カステルガット・ルフィ p.4

どの本だったかは覚えていないのですが、「到達すべき目標ではなく還ってくる場所」という言葉が目にとまり紙片に書き留めておきました。先日その紙片がふと目にとまって、この言葉が心を離れないというのでしょうか、深い何かに触れたようで強く促されつつ思い巡らす日を重ねることとなりました。

帰る、(還る))ということ—— 心になじみ心に切に温かいとても好きな言葉です。 家に帰る、故郷に帰る、彼のもとに帰る、地球に帰る、私に帰る、ここに帰る、そして、お帰りなさい、ここに帰っておいで、ようこそお帰り、…… 昔からほんとうに好きな「帰る」でした。

私は帰るということをごく普通にこんなふうを考えていたのではないかと思うのです。「帰る」という私の意志であり私の行為であり私が歩みゆく私の目標であると。 天国へ帰るのさえこの私が帰りゆくのだと思っていたに違いありません。 言ってみれば到達すべき目標であるといえなくはないのです。

しかし今回これほどに心にひびき留まったのは、帰る、(還る)が、特に天国へ帰る(還る)が、明らかにこれまで思っていたであろうものとは違ったものとして感じられたからなのです。

確かに若い時代は到達すべき目標というものははっきりとそのすがたを現わして、そこに生きることの全てがあったのだと思います。 今日この時のこともあれば明日のこともあり、一年後の目的も10年後の到達すべき目標もあったでしょう。 さまざまなことを深く感受しつつ経験しつつ喜び苦しみ悲しみつつ一心不乱に歩んだのです。 かのカルメル山登攀もその頂を常に遥かに望みつつ、全生涯をかけて祈りの中に到達すべき目標でありました。

どん底で主にまみえ、恵みの呼吸をしました。 傲り、無力、を幾度も思い知らされながら、握りしめている指を開き開かされ、一步一步と恵みを生きる歩みであったのかもしれませんが。 文字通りの意味で生きることそのものが祈りと信じ、到達すべき目標であったのだと思います。 登攀の山頂に立つとは、到達などでは決してなく、もうひとたびの回心であり、迎り来たところへと還ることであったことはほんとうに心底驚き呆然となりましたが、あの日ふり向いて目にしたこの世の景色、主が愛されたこの世の景色、全身を魂を覆い尽くした景色を忘れることはありません。 まさしく私はここへ確かに帰還したのでした。 主とともにあるこの日常の一日一日への帰還でした。

私たちはよく人生を四季にたとえます。

青春、朱夏、白秋、玄冬、—— 芸術等あらゆる分野に人生を四季になぞらえて表現される作品があります。

晴佐久神父様の詩集「だいじょうぶだよ」はいつも手元に置いてある私の大好きな本ですが、ここにも主に愛され主に導かれ主とともに生きる恵みの人生が、四つの章、四季になぞらえて詠われています。

春の章は復活、夏の章は覚醒、秋の章は救済、そして冬の章は帰還です。

独りで静かに、心をいっぱいひらいて頁をたどるとき、八十余年の人生の一日一日が深みから立ち上がってくるかのように感じられ、とても温かなそれでいてとても寂しい深い想いに満たされるのです。

春の章に「わたしのなかのくじら」という詩があります。

わたしのなかのくじらはわたしの海の底でゆうゆうと眠っていて、わたしが腹を立てたり頭にきたり心乱れたりしても目をとじたままで、わたしの闇の底で月のように発光して気高く美しい。病室で痛みと死の恐れと後悔と絶望に苛まれる夜も、それでもくじらは堂々と眠ったまま。

でも、くじらはある日目を開く。わたしの寿命が尽きて倒れわたしがわたしの海に帰るとき、わたしのなかのくじらはゆうゆうと泳ぎだす。 というような詩です。 わたしの海にわたしが帰るのに、ゆうゆうと泳ぎだすのはわたしではないのです。 わたしのなかのくじらなのです。

幾度も読んだ詩が初めてのようによく衝撃的に届きました。

嗚呼、引き寄せてくださるお方が動かれるのです。 私はひたすら信頼してここにいればそれでいいのです。 ただここにいます。 待つことさえ要らないのです。 きっとすべてこのままでここにいればいい。 恵みなのです。

いまここにいうものには、いつだって何だって備わっているのです。

いまこここそが、きっと帰還の世界そのものという気がします。

もしかしたらこのことを私はずっと昔からしっかり知っていたに違いないという気がしてなりません。

もうすぐ夫がデイサービスから帰ってきます。 晩ご飯の支度です。

主イエズスきてください——

(上野毛教会信徒)

## 糸巻き棒からペンへ(47)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え

エドゥアルド・サンス OCD

修道院を取り壊すことはできないというので、アビラ市は、修道院の壁は、公衆の水飲み場に陰ををつくるという理由で、訴訟を起こしました。議論は一貫性のないものでしたが、あれこれ似たような作り話と一緒に、修道院を閉める命令を下すために、訴えを王の前に提出することとなりました。時と共に、事件は沈静化し、訴えは忘れられ、公式には2012年、アビラ市の臨時総会議において、サン・ホセ修道院創立450周年記念という理由によって取り下げられるまで、この訴訟は終わりませんでした。

当時、市の重要度は、市が抱えている教会と修道院の数で測られました。修道院は厳しければ厳しいほど、評価されました。それゆえ、テレジアの創立した修道院を拒否することは、きわめて不思議なことでした。その創立が引き起こした主な原因は、経済的なことではなかったということも意識すべきでしょう。近くの修道院が、献金を互いに分かち合わなければならなくなり、恐らくすべての修道院には足らなくなるだろうと反対の声を上げたというものです。けれどもそうではありませんでした（この後の他の修道院の創立においてもそうであったように）。反対運動は一つやいくつかの修道院からではなく、全市から起こったのですから、他の原因を探さなければならないでしょう。

後ほど、その理由をはっきりと見ることになります。すなわち、その時まで、修道院や教会や病院や同様の施設は、常に男性によって創立されてきたのです。男性が土地を買い、工事を指揮し、すべての条件を整えたのです。ところが、テレジアは、このような重大な事柄をすべて自分のイニシアチブで行なおうとしたのです。

さらに、ルターの宗教改革によって引き起こされた教会分裂に対する恐れという歴史的状況において、テレジアが提案した質素な生活や内面性の強調は、プロテスタンティズムのような印象を与えたのです。サン・ホセ修道院の創立は、普通の人の家を増やすようなもので、修道院と見なすには小さすぎると思われたのです。ここに最初の創立拒否の真の原因を見出すことができると、私は思います。

(P. 九里訳)

# 跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介します。

◀ Communications (時事通信) ▶

2019年10月9日

## 第4回 跣足カルメル在世会 南アメリカ南部大会 開催

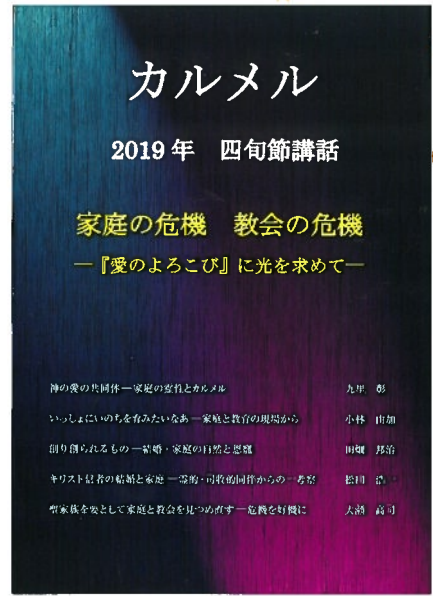


2019年9月19日～22日に南アメリカのアルゼンチン、ボリビア、ブラジル、チリ、パラグアイ、ウルグワイから約80名の跣足カルメル在世会の会員が幾人かの跣足カルメル修道会司祭と共に、アルゼンチンのピラー市にある司教協議会 会館に集まり、養成と親睦を分かち合いました。

この大会では、跣足カルメル在世会の会則に焦点を当て、会議全体の討論とグループ別の話し合いが持たれ、跣足カルメル在世会本部から総長代理のアルジュニール・セバスチャン神父が臨席されました。また大会日程の中で、参加者はハッピータイムを楽しみレクリエーションに興じるひと時を持ち、そしてピラー市近郊のルハンの聖母の聖堂を訪問しました。

(訳：小宮山延子)





## 2019年 秋号 No.374

\*\*\*《祈りを学びたい人のために》\*\*\*\*\*  
 信仰生活(再)入門 テレーズと共に歩む 幼子の道(7)  
 —祈りを始めるために(3)主の祈り  
 片山はるひ  
 パウロの祈りに学ぶ(3)感謝とキリストの愛をたたえる祈り  
 —コリントの教会への手紙 I 田畑邦治  
 エディット・シュタインが教える祈り(II) 須沢かおり  
 現代社会において 祈りの人となるには(3) 九里 彰  
 \*\*\*\*\*  
 風に吹かれて(21)—妖怪サトリ  
 原 造  
 キリストに伴われて季節を巡る(7) 伊従信子  
 イエスの聖テレジアの聖体(エウカリスティア)への信心  
 松田浩一  
 六十年を遡って恋をする 森 みさ  
 カルメル会の会則に見る  
 アシェーシスと修道生活(7) 九里 彰

## 2019年 特集号

「家庭の危機 教会の危機」  
 —「愛のよろこび」に光を求めて—  
 神の愛の共同体—家庭の霊性とカルメル 九里 彰  
 いっしょにいのちを育みたいなあ 小林由加  
 —家庭と教育の現場から  
 創り創られるもの—結婚・家庭の自然と恩寵 田畑邦治  
 キリスト信者の結婚と家庭  
 —靈的・司牧的同伴からの—考察 松田浩一  
 聖家族を要として家庭と教会を見つめ直す  
 —危機を好機に 大瀬高司

### ご案内

1冊 520円 A5サイズ 50~70 ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会信徒ホール本コーナー・  
 各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

- 送付ご希望の方は、700円【520円(+送料180円)】程度の献金を下記へお振込み下さい
- 年間での継続送付ご希望の方は、年会費(年5冊:春夏秋冬+特集号 計 3,500円)を  
 下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457 跣足カルメル修道会

- お問い合わせは、事務担当:今泉ヒサエ宛に上野毛修道院へ手紙かファックスで。

〒158-0093 世田谷区上野毛 2-14-25 Fax:03-3704-1764

又は E-mail: hisa ima520@ezweb.ne.jp



福者マリー=ユジェーヌ神父に導かれて  
十字架の聖ヨハネの  
**ひかりの道をゆく**

伊従 信子 編・訳

ISBN978-4-88216-372-5 C0195

定価**540**円(税込)

【聖母文庫】**287**

**第2版  
好評発売中!**



マリー = ユジェーヌ神父が十字架の聖ヨハネ  
を生き、体験し、確認した教えなのです。  
ですから、十六世紀の十字架の聖ヨハネの  
教えは現代の人々にも十分適応されます。  
また、神の命を伝え、実践的手段を示して  
聖性の最も高い段階へと導こうとする彼の  
配慮が伝わってきます。(「はじめに」より)

神と親しく生きる  
**いのりの道**

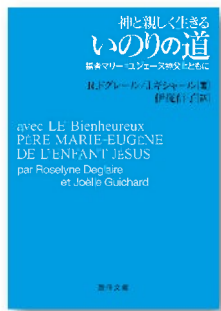
福者マリー=ユジェーヌ神父とともに

**R. ドブレール / J. ギシャル 著**

伊従 信子 訳

ISBN978-4-88216-307-7 C0195 【聖母文庫】**246**

定価**540**円(税込) 209頁



わたしは神をみたい  
**いのりの道をゆく**

マリー=ユジェーヌ神父とともに

伊従 信子 編・著

ISBN978-4-88216-339-8 C0195 【聖母文庫】**268**

定価**648**円(税込) 281頁



ご注文・お問い合わせ先

**聖母の騎士社** ☎850-0012 長崎市本河内2-2-1  
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340



## 書籍案内

### 生きる意味

#### ●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美 編

A5判・312頁・2500円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など——危機にさらされている人間の救済の道を探る。

#### ——— 目次 ———

- 序 「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
- 1 東日本大震災と宗教／中下大樹
  - 2 宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
  - 3 東日本大震災に思うこと／佐藤純一
  - 4 脱原発の倫理／久保文彦
  - 5 何のために働くのか／神谷秀樹
  - 6 グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
  - 7 私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
  - 8 関係の倫理学／清水正之
  - 9 宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
  - 10 V・フランクルのロゴセラピー／桑原直己
  - 11 「神の子となる」——カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
  - 12 「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禪
  - 13 エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所 TEL:03-3322-7601 FAX:03-3325-5322

ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ



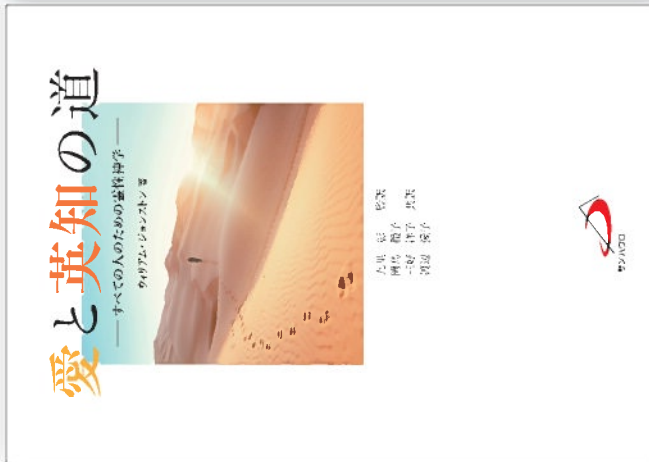
# 愛と英知の道

—すべての人のための霊性神学—

ウィリアム・ジョンストン 著

九里 彰 監訳

岡島 禮子 三好 洋子 渡辺 愛子 共訳



西洋と東洋の神秘主義の伝統に通暁した著者が、21世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した霊的生涯の道しるべ。「すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」（『教会憲章』39）。

本書は、十字架の聖ヨハネが16世紀に向けてなしたことを、21世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渴望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私どもと心を一つにし

## 第一部 キリスト教の伝統

- 第1章 福音書(1)
- 第2章 福音書(2)
- 第3章 理性対神秘主義
- 第4章 神秘主義と愛
- 第5章 東方のキリスト教
- 第6章 愛を通して生まれる英知

## 第二部 対話

- 第7章 科学と神秘神学
- 第8章 修徳主義とアジア
- 第9章 神秘主義と根源的なエネルギヤ
- 第10章 英知と(空)

## 第三部 現代の神秘的な旅

- 第11章 信仰の旅
- 第12章 浄化の道
- 第13章 暗夜
- 第14章 (愛のうちにある)
- 第15章 花嫁と花婿
- 第16章 一 致
- 第17章 英知
- 第18章 活動
- 第19章 社会活動の神秘主義

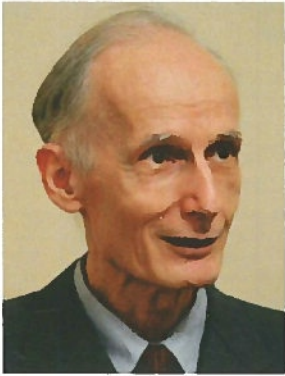
ウィリアム・ジョンストン William Johnston S.J. (1925-2010)

北アイルランドのベルファストに生まれる。

イエズス会に入会し、26歳で来日。

32歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教学を上智大学などで講じるかたわら、東西の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及に尽力。パドロー・アルベ、トマス・マートン、ダライ・ラマ、永井隆、遠藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した霊性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85歳で帰天。





## クラウス・リーゼンフーバー小著作集

(全五巻) 四六版・434頁～628頁

各巻 本体 3,800～5,000 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構築して、キリスト教信仰と霊性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は40余年の著述活動による150余の小論考からなっており、霊的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN
第1巻	<b>I 超越体験 一宗教論</b> 宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全11作、434p	定価(本体+税) 9784862852151 3,800 円+税
第2巻	<b>II 真理と神秘 一聖書の黙想</b> 日常生活を貫いて人間とかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全35作、544p	978-4862852175 4,600 円+税
第3巻	<b>III 信仰と幸い 一キリスト教の本質</b> 主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」をとおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と霊性から信仰生活の深みを照らす。全38作、628p	9784862852205 5,000 円+税
第4巻	<b>IV 思惟の歴史 一哲学・神学的小論</b> 古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐる根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに広げて信仰生活の深みに掘下げる。全41作、448p	9784862852212 4,000 円+税
第5巻	<b>V 自己の解明 一根源への問いと坐禅による実践</b> 信仰との関わり方の薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です!」収録。全35作、470p	9784862852229 4,200 円+税

### ●リーゼンフーバー、クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938年ドイツ生まれ。1958年イエズス会入会。1967年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969年上智大学文学部哲学科専任講師。1971年東京で司祭叙階。1974年上智大学中世思想研究所所長(～2004)。1981年上智大学教授。1989年上智大学神学博士。国公立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009年上智大学名誉教授。現在は哲学的人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知 泉 書 館 〒113-0033 東京都文京区本郷 1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166  
http://www.chisen.co.jp

# 2020年のご案内

年間テーマ 手を取りあい、自ら歩み出す



大瀬高司 師

好評の2019年の連載「カトリックの信仰を生きた愛国者・ステファノ山本信次郎」に引き続き大瀬高司神父の新連載が始まります。

●近代日本の歩みとカトリック教会  
——山本信次郎研究ノートより  
大瀬高司（カルメル修道会司祭）

山本信次郎研究で得られた成果から、近代日本のカトリック教会での出来事や人物を取り上げ、これまであまり知られていないエピソードを中心に紹介します。

## その他の新連載

- アンジェラスの鐘／加藤美紀（教育学者）
- 知恵ある者たちのアフォリズム／加藤久美子（聖書学者）
- かたわらに、今、たたずんで／大野高志（日本基督教団牧師）
- 聖歌と賛歌——民衆霊性と多様性から  
杉本ゆり（中世教会音楽研究者）
- 新米神父の開拓奮闘記／大西勇史（広島教区司祭）
- いのちの交わりの場——エコロジカルな暮らしのために  
吉川まみ（環境学者）

## 継続連載

- 典礼暦と季節の味わい（応用編）  
柳谷晃子（食文化研究所主宰）



## 月刊『福音宣教』お申し込み方法

◇郵便局に備えつけの振替用紙にて年間定期購読料を下記口座までお振り込みください。ご入金確認後、発送いたします。

- 口座番号：00170-2-84745
- 加入者名：オリエンズ宗教研究所
- ご購入料：7500円（税・送料込）
- 備考欄：「福音宣教～月号から」とご希望の開始月をご明記ください。ご指定がなければ、最新号からお送りいたします。

年間定期購読料（年11回、8・9月合併号）7500円（税・送料込）一部定価600円＋税

オリエンズ宗教研究所 〒156-0043 東京都世田谷区松原2-28-5  
Tel 03-3322-7601 Fax 03-3325-5322 <https://www.oriens.or.jp/>



## 朝日カルチャーセンターの 通信深読「聖書に親しむ」へのご案内

「通信深読」は、「聖書深読黙想会」にさまざまな理由で参加できない方々のために考案されました。参加を希望される方は、下記の朝日カルチャーセンター通信講座課へお申し込みください。手続きがすめば、次のような手順でこの「通信深読」が行われてゆきます。

### ファースト・ステップ

「個人素読」：毎月、朝日カルチャーセンターから指定された聖書深読箇所を、ひとりで繰り返し読み、み言葉を自由に黙想します。

### セカンド・ステップ

「個人素読」の報告書作成：送られてきた用紙（B5用紙）に、深読箇所特に印象に残った節を二三ヶ所選び、番号と○や△や×などの記号を記し、「全」には、全体の印象を表す、ご自分の体験と結びついた具体的な名詞を、「照」にはみ言葉を実践する決意を示す動詞を書き込みます。さらに「所感」や「近況報告・質問」の欄に、ご自由に自分の考えや質問等を記入します。

### サード・ステップ

（参加者から朝日カルチャーセンターへ送られた「個人素読」の報告書は、参加者全員のものまとめられ、講師へ送られます。）

講師が各参加者の「個人素読」の報告書に対しコメントし、深読箇所の「解説」（A4 2枚）と共に、朝日カルチャーセンターへ送り返します。

### フォース・ステップ

コメントされた全員の「個人素読」の報告書（「近況報告・質問」はプライベートなこともあるので、削除されます）と「総合素読表」、そして講師の「解説」が冊子となり、各参加者に、センターから送られます。

\* 費用：6ヶ月（20,360円）。納入は4月、7月、10月、1月。継続の場合19,130円。

\* 講師：九里彰師（奇数月）、今泉健師（偶数月）

\* 問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル

私書箱21号 朝日カルチャーセンター通信講座課

Tel: 03-3344-2527（直通）

# カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

**Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum**

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19 : 10）



## 東京 上野毛 霊性センター

黙想企画 \*\*上野毛 聖テレジア修道院 (黙想) \*\*

祭日のミサに参加するために

チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

【クリスマス】 12月24日(火)～25日(水)朝食<講話なし、夕食なし>

聖書深読黙想会 (土曜日18時～日曜日16時) 大瀬高司 神父

11月30日(土)～12月1日(日)

一泊黙想会 (土曜日16時～日曜日16時) 志村武神父

2020年

11月9日～10日

1月18日～19日

3月14日～15日

日帰り黙想会——(13時30分～16時)——福田正範 神父

5月以降は全て中止となりました

奉獻生活者のための黙想会 (初日17時～最終日朝食)

※指導司祭は、当初ご案内していた福田正範神父から今泉健・志村武両神父に変更となりました

12月27日(金)～1月5日(日)

青年黙想会(男女) 35歳位まで(初日16時～翌日16時) カルメル会士

2020年

2月15日(土)～16日(日)

召命黙想会（男女）40歳まで（初日16時～最終日16時） カルメル会士  
11月22日(金)～11月24日(日)

特別黙想会（初日20時～翌日16時）Sr. 伊従信子（ノートルダム・ド・ヴィ）  
11月15日(金)～11月17日(日)



- \* 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、ホームページ（<http://www.carmel-monastery.jp>）なども合わせてご覧下さい。
- \* こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です（グループ、個人いずれも）。お気軽にお問い合わせください。
- \* 間違いを避けるため、お問い合わせはFAX・はがき・Eメール等、文書でお送り頂きますと幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

Tel:03-5706-7355 Fax:03-3704-1789

Eメール：mokusou@carmel-monastery.jp

ホームページ：http://www.carmel-monastery.jp

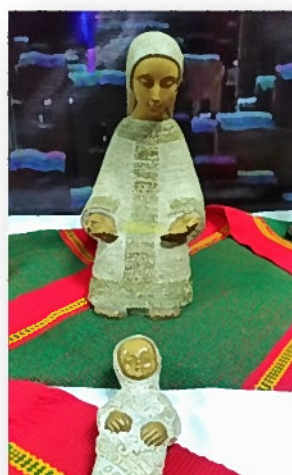
主よ、来てください

主よ、来てください

主よ、来てください

主よ、来てください

主よ、来てください



## 特別黙想会 《わたしは神をみたい》

2019年11月15日(金) 20時 ~ 17日(日) 15時

- 指 導: 伊 従 信 子 (ノートルダム・ド・ヴィ会員)
- 持 参 品: 『いのりの道をゆく』伊 従 編・著、聖母文庫、聖母の騎士  
(『ひかりの道をゆく』をお持ちの方はそちらも)  
黙想の家にて購入可
- 参 加 費: ¥13,000
- 場 所: カルメル会上野毛聖テレジア修道院(黙想の家)  
〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25  
Tel 03-5706-7355
- お 申 込 み: FAX:03-3704-1789  
Eメール: mokusou@carmel-monastery.jp  
または、ハガキにてお申込み下さい。



# 一泊黙想会

5月より新しく一泊黙想会を開始致します。皆様の参加をお待ちしています。

場所： カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

指導： 志村 武神父

会費： ¥6500

日時： 2019年 5月25日(土)～26日(日) 16時開始、翌日16時まで

7月 6日(土)～ 7日(日) //

11月 9日(土)～10日(日) //

2020年 1月 18日(土)～19日(日) //

3月14日(土)～15日(日) //

\*お問合せ・お申込み

カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

TEL.03-5706-7355

FAX.03-3704-1789

Eメール:mokusou@carmel-monastery.jp



# カルメル会聖人に学ぶ黙想会

## 一日黙想会

### 十字架の聖ヨハネの『カルメル山登攀』

『燕』の博士といわれる十字架の聖ヨハネは、『カルメル山登攀』を執筆し、常にキリストに従う『信仰の暗夜』に入る人々を導いてきました。信仰生活に光を求めている人は、参加してみませんか。

2019年11月20日（水曜日）10時～16時

場所：上野毛聖テレジア修道院（黙想）

指導：松田浩一 神父（男子カルメル修道会）

会費：3,500円（昼食付）

持参するもの：筆記用具とノート



お問合せ・お申込みはメール、FAX、ハガキにてお願いします。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想）

Tel 03-5706-7355 Fax 03-3704-1764

E-mail: [mokusou@carmel-monastery.jp](mailto:mokusou@carmel-monastery.jp)

# カルメル修道会 土曜静修 in 名古屋

—カルメル会士とともに過ごす聖母の土曜日—

日 時 : 2019年 11月2日 (土) 13時から 17時 年内最終

場 所 : カルメル修道会 日比野 (本部) 修道院 (カトリック日比野教会)

プログラム : 13時 ~ 講話・黙想など  
16時 ~ ミサ (ミサ中に教会の祈り)、サルヴェ・レジナ (ミサ後)  
17時 解散

- ・受付開始は12時半頃。 ・プログラム途中、ゆるしの秘跡の時間を設けます。
- ・プログラムに必要な「祈りのリーフレット類」は、こちらで準備いたします。

そ の 他 : 参加のための事前連絡は不要です。当日、直接会場にお越し下さい。

(尚、当日は、1,000円 程度のご寄付を宜しくお願いいたします。)

問い合わせ : 郵便、FAX、E-mail の何れかで「カルメル修道会 一日静修係」まで。

郵便 456-0062 名古屋市 熱田区 大宝 4-5-17

FAX 052-681-6445

E-mail [hibino@carmel.or.jp](mailto:hibino@carmel.or.jp)

## 今後のスケジュールなど

★12月の土曜静修は、お休みさせていただきます。(11月2日が年内最終の土曜静修です。)

★次の土曜静修は、2020年1月11日(土)、2月1日(土)です。3月以降は未定です。  
尚、来年は第1土曜日とは限りませんので、[霊性センター](http://www.carmel-monastery.jp)、ホームページ等でご確認下さい。

【ホームページ】 <http://www.carmel-monastery.jp>

< 主催 > 男子跣足カルメル修道会 日比野 (本部) 修道院 (大瀬神父・古川神父)



## 宇治カルメル会 黙想会案内 (2019年11月～2020年3月)

【一般のための黙想】・1泊2日（午後5時～午後4時）

11月23日(土)～24日(日) **現代を生きるイエスのしるし** 中川博道神父  
2020年

1月18日(土)～19日(日) **この時代をイエスと生きる** 中川博道神父

【聖書深読黙想会】（午前10時～午後4時）

~~11月16日(土)~~ 九里彰神父 **中止**  
2020年

1月25日(土) 中川博道神父

3月14日(土) 中川博道神父

【水曜の黙想】（午前10時～午後4時）

11月27日(水) **あなたは世の塩である** Sr.ロサ

12月18日(水) **主が生まれる私たちのうちに** 中川博道神父

2020年

2月26日(水) **復活への道〈灰の水曜日〉** 中川博道神父

3月18日(水) **まだ眠っているのか？** Sr.ロサ

【土曜の黙想】（午後1時～午後6時）

2020年

3月7日(土) **苦しみの中イエス** 中川博道神父

【一般のためのカルメル霊性】（午後5時～午後4時）

12月14日(土)～15日(日) **十字架の聖ヨハネ** 中川博道神父

【四旬節の黙想】（午後5時～午後4時）

2020年

3月7日(土)～8日(日) **「荒野での試み」** 中川博道神父

九里彰神父の黙想会は5月より金沢へ移動にあたり、全て中止とさせていただきます  
また今後、変更があり次第、掲載させていただきます

**【奉献生活者の黙想】** (午後5時～午前9時)

11月6日(水)～15日(金) 中川博道神父

12月27日(金)～1月5日(日) 中川博道神父

**【待降節の黙想】** (午後5時～午後4時)

12月7日(土)～8日(日) ~~「メシアのしるし」~~ 九里彰神父 **中止**

**祭日のミサに参加するために**

チェックイン午後4時以降可 チェックアウト午前11:30{講話なし 各食事つき}

**【クリスマス】**

12月24日(火)～12月25日(水)

ーその他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたしますー

☆お申し込みは電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申込み下さい。お電話はなるべく午前9時～午後5時の間にお願い致します。受付が休みの場合はその場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様をお願い致します。



〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)

Tel 0774-32-7016 Fax 0774-32-7457

E-Mail: [teresiauji@mountain.ocn.ne.jp](mailto:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp)

<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

## 金沢黙想案内

毎月第一日曜日 三馬教会 聖堂

14：30～ 講話

15：30～ ミサ（ラテン語聖歌）

## 土曜フレックスタイム静修

毎月第三土曜日（第二の場合あり）三馬教会 聖堂

14：00～ 講話

14：30～ ベネディクション・聖体祭儀

15：30～ サルヴェ レジナ 終了

沈黙の祈りのうちに神様と語らい、またご聖体のイエス様と  
共に静かに憩いの時を過ごし、心をリフレッシュしましょう



カルメル霊性センター

〒921-8162

金沢市三馬3丁目324番地

カルメル会 三馬修道院

三上 和久神父まで

Tel 076-244-7788

# 諸所の企画案内



真命山 霊性交流センター  
ノートルダム・ド・ヴィ  
サダナ瞑想  
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院  
慈しみ深き会  
詩編の会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。  
記載には注意を期しておりますが、  
詳細は各問い合わせにご照会下さい。  
よろしくお願い致します。

「祈り」：神秘体験  
キリストによって神との出会い

毎月第2木曜日（10:00～15:00）

指導者 フランコ神父

2月14日：コデノッティ・クラウディオ神父(ザベリオ会管区長)  
個人またはグループでの黙想会  
研修会も歓迎いたします(要予約)

- 1月10日 「わたしはある」（ヨハネ8:24.28）  
2月14日 「わたしはこの世の光である」（ヨハネ8:12.12:46）  
3月14日 「わたしは門である」（ヨハネ10:7-9）  
4月11日 「わたしは良い羊飼いです」（ヨハネ10:14）  
5月 9日 「わたしは復活であり、命である」（ヨハネ11:25）  
6月13日 「わたしが命のパンである」（ヨハネ6:35.51）  
7月11日 「わたしは道であり、真理であり、命である」（ヨハネ14:6）  
8月 休み  
9月12日 「わたしはまことのぶどうの木」である。（ヨハネ15:1-12）  
10月10日 「わたしは…いつもあなたがたと共にいる」（マタイ28:20）  
11月14日 「わたしはアルファであり、オメガである」（黙示録1:8）  
12月12日 「二人または三人がわたしの名によって集まるところには、  
わたしもその中にいるのである」（マタイ18:20）



申込先

真命山 諸宗教対話センター

865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7

e-mail: shinmeizan@gmail.com

www.shinmeizan.com



# 祈りの集い



【2019年11月9日(土)】

午後2時～5時30分

人生の夕べに、愛について問われるでしょう(パート1)

十字架の聖ヨハネのこの言葉は  
わたしたちに何を語るのか、一緒に考えます

講話・祈り・分かち合い 担当 中山 真里

【2019年12月7日】 担当 伊従 信子

【2019年12月14日】 担当 中山 真里

\*\*\*\*\*

場 所：ノートルダム・ド・ヴィ (東京・上石神井)



参加費：200円

\*\*\*\*\*

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35  
TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254  
e-mail notredamedevie.japan@gmail.co

## サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。

<http://sadhana.jesuits.or.jp/>

込み受付・・開始日の8日前まで

コース	日時	指導	開催場所	申込み
広島サダナ I & アドバンス	11/15(金)9:00- 17(日)18:00	Fr植栗 Frアレックス	西日本霊性センター (広島市安佐南区)	西日本霊性センター 受付デスク TEL082-239-0034 ※前泊、継続宿泊、通いも 可能です。
入門C	11/24(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院 1F(四ツ谷)	来間(くるま) 裕美子※ TEL 090-5325-2518 045-577-0740 sadhana12378@yahoo. co.jp
フォローアップ	2020年 1/5(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院 1F(四ツ谷)	同上
フォローアップ 新I	1/19(日) 9:30-17:00	サダナ チーム	同上 ※16時からミサあり。 椅子での黙想です。	同上
サダナ1	2/8(日)17:30- 11(火)16:00	Fr植栗	カルメル修道会上野 毛修道院 黙想の家 (上野毛)	同上

※申し込まれると確認メールが返信されます。確認メールが届かない場合は、090-5325-2518 (来間) までお問い合わせください。

※不在の場合は、渡辺由子 Tel&Fax : 042-325-7554

◆サダナI (入門A.B.C) …体の営みと想像とを生かして祈りを深め「神との出会い」と「心の解放」をめざします。

◆サダナII …Iをいっそう深める。身体・感・想像・自分史が、神との交わりのもと統合されます。

◆フォローアップ…サダナIを終えた方。

◆サダナ新I …入門A.B.C (サダナI) に参加された方の引き続きの前進のために、その良さを噛みしめながら進みます。以前体験したことを復習しながらの歩み出しです。



## ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院 (2019年)

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1  
Tel： 077-579-7580  
Fax： 077-579-3804  
E-メール： karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。  
琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

◎ 日程：

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、18時の夕食で始まり、最終日は昼食で終わります。

- ① 5月 5日(日)～ 5月 13日(月)
- ② 8月 14日(水)～ 8月 22日(木)
- ③ 10月 6日(日)～ 10月 14日(月)
- ⑤ 12月 27日(金)～2020年1月 4日(土)

B. 祈りの体験：週末3日間 (金曜日の夕食～日曜日の昼食)

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- ④ 6月 21日(金)～6月 23日(日)
- ⑤ 7月 12日(金)～7月 14日(日)
- ⑥ 9月 20日(金)～9月 22日(日)
- ⑦ 11月 15日(金)～11月 17日(日)

C. 講話 黙想 (奉獻生活者のため)

2019年 5月 30日(木) 夕食～6月 7日(金) 昼食 小暮 康久 師 (SJ)

◎ 対象： 信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： 司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他

◎ 申込み： 1) 氏名(カタカナ) 2) 〒住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて郵送、または、Faxで「黙想係」Sr.松本佳子へ申し込んでください。唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。 先着順 11名です。

◎ 女子青年 黙想会

- ① 6月 15日(土) 15時～6月 16日(日) 15時 30分
- ② 10月 26日(土) 15時～10月 27日(日) 15時 30分

申込み：唐崎修道院 Sr.桂川 美代 (Tel:077-579-2884 Fax:077-579-3804)

◎ その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なさりたい方はご相談ください。(但し、上記の日程と8月1日～8月9日、9月1日～9月7日を除きます。)

## 祈り：講話と実践

沈黙の内に神を求めて  
— 観想の祈りへの道 —

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室  
12月のみマリア聖堂（ミサあり）  
14：00～16：00



くのり  
指導：九里 彰 神父（カルメル修道会）

【2019年予定】 聖書のみことばを通して、念禱してゆきましょう。

- ~~1月24日~~ まことの家族とは **終了**  
~~「わたしの母、わたしの兄弟とは…」~~（ルカ8・21）
- ~~3月21日~~ 祈りと祈りの場 **終了**  
~~「わたしの家は、祈りの家でなければならない。」~~（ルカ19・46）
- ~~5月16日~~ 人間の傲慢 **終了**  
~~「だれが一番偉いかという議論が起きた。」~~（ルカ9・46）
- ~~7月25日~~ 神の愛と隣人愛 **終了**  
~~「わたしの隣人とはだれですか。」~~（ルカ10・29）
- ~~9月26日~~ 信仰と救い **終了**  
~~「あなたの信仰があなたを救った。」~~（ルカ7・50；8・48；18・42）


1 1月28日 神の愛と回心  
「人の子は、失われたものを捜して救うために来たのである。」  
（ルカ19・10）

1 2月19日 謙遜と従順（講話の後、ミサ）  
「お言葉どおり、この身に成りますように」（ルカ1・38）

\*参加費無料（献金歓迎）

\*問い合わせ先：042-473-6287 篠原

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。



午後の静修〈講話・念祷・ミサ〉へのおさそい

《わたしが生きることゝ渴く神》

— 灰の土曜日に —

日 時：2020年2月29日(土)  
12時～16時(受付11時半)

指 導：中川博道神父 (カルメル修道会)

対 象：どなたでもご参加ください。

※実費費用の為に献金をお願いします。

上履きをご持参ください。

要申込：住所・氏名・電話番号・所属教会

をご記入の上、

FAX 又はメールにて (返信します)

定員になり次第〆切 (12月2日から受付開始です)

FAX:045-402-5131

e-mail:shihennokai@gmail.com

場 所：聖パウロ修道会 若葉修道院

東京都新宿区若葉1-5

JR中央線/営団地下鉄 丸ノ内線・南北線 「四ツ谷」駅下車

サンパウロ→ドンボスコ→ファミリーマートを左折

→甘栗太郎を右折→道なりに右折→90m直進

四ツ谷小学校の正面

主催：「詩編の会」

問合せ：TEL/FAX：045-402-5131 (藤井)

e-mail:shihennokai@gmail.com



# 『靈性センターニュース』

## \* 郵送お申込みのご案内 \*

ご郵送は、基本的に1月から12月までとなります。  
途中からお申し込みの場合は、お申し込みの翌月から12月までとなります。  
例：6月申込の場合は、7月号~12月号（但し8月号は休刊）となり、  
5冊となります。ご希望の月数×250円程度の献金を下記口座  
へお振込み頂ければ、幸いです。

郵便番号口座： 00910-6-333184  
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局

なお、振替用紙の通信欄には、「郵送申込」（何月から何月まで）、また氏名、  
郵便番号・住所、電話、Fax等ご明記ください。

また、郵送お申込とは別に、ご献金もお願いしております。

その場合は、「献金」とご記入お願い致します。

何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御藏山 39-12  
カルメル会宇治修道院 「靈性センターニュース事務局」  
Tel:0774-32-7456  
Fax:0774-32-7457

[reisei@carmel-monastery.jp](mailto:reisei@carmel-monastery.jp)

男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>

Google:「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会  
Order of Discalced Carmelites

靈性センターニュース掲載の情報も載っています

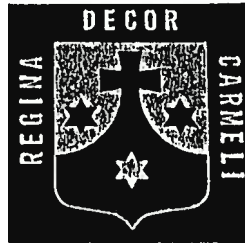
## あとがき

1981年、聖ヨハネ・パウロ二世教皇が来日された時、東京カテドラルの集いと、後樂園でのミサにあずかることができました。

教皇が会場にお入りになると、その場の空気は一変し、周りの人々が喜びと平和に満たされ、イエスと群衆の出会いを思わせる経験でした。教皇自らが「今日の人々は今日の信仰者に、たとえ意識的にではなくても、キリストについて『語ってほしい』だけでなく、ある意味でキリストに『会いたい』と願っています」と言われていたことを、まさに生きておられました。

“聖人の教皇たちの時代”といわれる今日、「権力はなくとも、世界で最も権威ある存在」とささやかれるフランシスコ教皇が来日されます。すでに、教会の雰囲気を一変させるかのような歩みが、日本にもたらすものは何かと思ひめぐらします。

Fr. 中川



~~~~製本／発送のご協力お願い~~~~

「霊性センターニュース」の製本/発送を、2017年7月号より宇治修道院で行う事になりました。発送作業は梱包・宛名ラベル貼りと確認チェック等です。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加も大歓迎です。

次回の製本/発送日 **11月29日(金) 午前10時頃から**

**宇治修道院信徒会館**

※ご協力いただける方は、製本/発送日をご確認の上、お越してください。

霊性センター事務局 ☎0774-32-7456